

# 1. 連携組織図ならびに連携協議会の役割

滋京奈地区を  
中心とした  
地域社会の発展  
を担う人材育成

## 滋京奈地域 産学協働連携協議会

滋賀県  
4大学

京都府  
7大学

奈良県  
5大学

### 連携団体

- ・滋賀経済産業協会
- ・京都経営者協会
- ・京都商工会議所
- ・奈良商工会議所
- ・滋賀県中小企業同友会
- ・京都経済同友会
- ・奈良県経営者協会

広域推進団体  
・関西経済連合会  
・近畿経済産業局

(大学名右の※印は部  
会リーダー校とする)

(必要に応じて、新たな部会  
の参加を可能とする)

テーマ部会:A  
地域連携における  
発展型インターンシップ

京都外国語大学※

- ・京都産業大学
- ・京都文教大学
- ・龍谷大学
- ・奈良県立大学
- ・天理大学

テーマ部会:B  
PBLを契機とした主体的な  
学びの確立

滋賀大学※

- ・長浜バイオ大学
- ・聖泉大学
- ・京都産業大学
- ・京都ノートルダム女子大学
- ・京都文教大学

テーマ部会:C  
キャリア形成カリキュラム  
の質的改善

奈良女子大学※

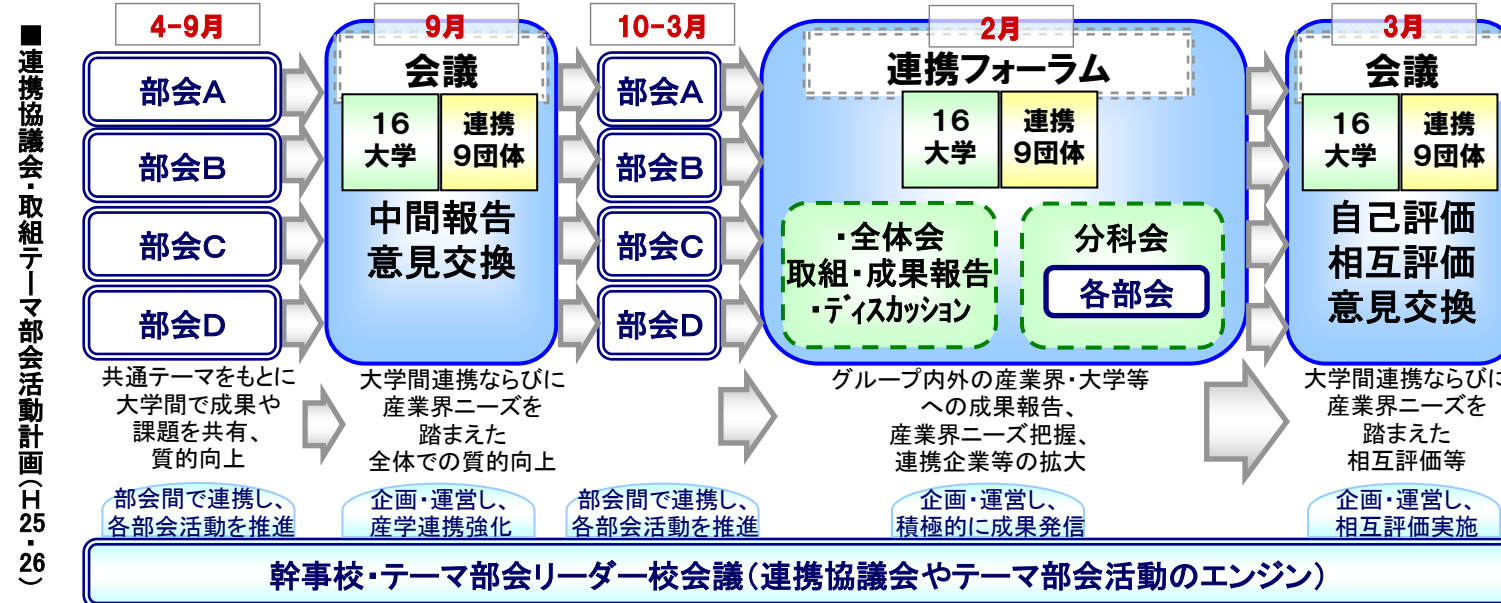
- ・京都府立大学
- ・京都学園大学
- ・京都ノートルダム女子大学
- ・奈良県立大学
- ・帝塚山大学
- ・天理大学

テーマ部会:D  
産業界等との連携  
ならびに実施推進体制

京都産業大学※

- ・滋賀大学
- ・滋賀県立大学
- ・聖泉大学
- ・京都外国語大学
- ・京都文教大学
- ・奈良女子大学
- ・奈良佐保短期大学

24.11	25.3	25.9	26.2	26.3	26.9	27.2	27.3
発足会	会議	会議	連携フォーラム	会議	会議	連携フォーラム	会議



・テーマ部会のPDCA活動  
を中心に、各大学の取組  
を推進し、各大学の目標  
達成に資する

【教育改善】

【事業計画】

・会議において自己評価と  
相互評価を行い、産業界  
等や他大学と意見交換を  
行いながら、次年度の事  
業計画を策定する

事業終了後、本事業の  
成果を踏まえて、  
連携協議会継続予定

## 2. 取組テーマの概要

部会	テーマ部会A:地域連携における発展型インターンシップ	テーマ部会B:PBLを契機とした主体的な学びの確立	テーマ部会C:キャリア形成カリキュラムの質的改善	テーマ部会D:産業界等との連携ならびに実施推進体制
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学側におけるインターンシップに対する考え方と成果目標の多様性</li> <li>・受け入れ企業・団体におけるインターンシップに対する考え方の多様性</li> <li>・短期就業体験型インターンシップの有効性の限界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業界等の連携先の開拓や確保</li> <li>・教育プログラム内における産業界等との連携のあり方</li> <li>・少人数教育が主となるPBLをできるだけ多くの学生に提供できる履修体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム全体の科目構成と教育目標設定</li> <li>・キャリア形成教育科目の授業方法と成績評価</li> <li>・キャリア形成教育における教育的指導と支援のあり方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業界等との連携や連携実施・活用体制に関するノウハウは個々の大学のみにより止まりがちであること</li> <li>・一大学のみでの連携拡大・強化活動には高い壁が立ちはだかっていること</li> </ul>
取組テーマの設定と内容	<p>各大学が実施してきた多様なインターンシップを基盤に産業界等との連携をさらに深め、各大学の人材育成システムの特色を活かしながらインターンシップを発展させていく。そしてインターンシップが産業界ニーズに対応した教育内容に繋がっているという明確な答えを引き出せるよう、各大学が連携しつつ、メンバー大学がその特徴を活かしながら、「地域連携における発展型インターンシップ」の開発・実施の促進を図る。短期であっても教育改善・充実につながるような課題達成型・課題解決型、あるいは長期インターンシッププログラムに関して意見交換し、各大学の特色を活かしたインターンシップを展開する。</p>	<p>各大学がこれまで実施してきたPBLに関する取組内容を共有化し、共通する課題を抽出し、その解決に取組む。あわせて他大学の良い事例などを参考にし、教育資源を有効に活用し、PBLの質的および量的向上を目指す。また、産業界等のニーズの把握に努めるとともに、産業界との連携を深める。さらに、それぞれの教育の質的向上をはかるために、共同のPBLプログラムの開発が可能であれば検討し、実施する。</p>	<p>産業界等と連携して各大学の特色をさらに磨き上げていくことを目指し、それぞれの取組の成果と課題を共有し、産業界等の要望や意見を交換しながら、下記の3点で具体的な改善方策を探る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.産業界ニーズに応えられる内容と体系性、訴求力を備えた科目構成と教育目標の設定</li> <li>2.教育方法と成績評価</li> <li>3.教育的指導・支援、ポートフォリオを活用したキャリア形成指導、相談・支援体制など</li> </ol> <p>これを踏まえて、カリキュラム設計と授業科目のシラバスなどが、産業界等の理解と評価を得られるかをチェックし、具体的改善に取組む。</p>	<p>各大学が開発・実施してきた産業界等との連携体制を改善し、各大学の「人材(人財)」育成システムの特色をさらに有効なものにするために、各大学の共通テーマとして「産業界等との連携ならびに実施推進体制」を設定した。</p> <p>具体的には、各大学は、本部会で共有した情報を活用しながら、いまままでに培ってきた産業界等との連携体制を改善・強化する。</p> <p>各大学の改善・強化活動に資するために、最初に学生・卒業生や産業界ニーズ、各大学の産業界等との連携体制の現状を把握する。その後、産業界等や本部会構成メンバーと意見を交換しながら、各大学が具体的な改善計画を策定し、その計画を実施して、成果を共有する。</p>
成果	<p>インターンシップの類型(大学主導型・産業界主導型・コーオプ型・PBL型など)別に各メンバー大学の目標を共有し、意見交換することにより、各メンバー大学の特色を活かし、産業界等にも受け入れメリットのあるインターンシップを確立できる</p>	<p>それぞれにふさわしい体系的なPBL型教育システムの構築を支援することにより、学生の自主的な学びの確立を通じて主体的に取組む力や課題を発見する力を育成できる</p>	<p>特色あるキャリア形成カリキュラムについて、産業界等の理解と助言、評価を受けて質的改善を加え、これを積極的に産業界にフィードバックできる</p>	<p>各大学が培ってきた産業界等との連携ノウハウや産業界ニーズを共有し、参加主体やその内部構成メンバーにフィードバックする継続的な体制を確立できる</p>
産業界ニーズ	<p>連携協議会会議で各大学の取組に対して産業界等から評価・提言を受ける／テーマ部会活動に産業界から有識者等を招聘して意見を交換する／連携フォーラムの参加者に対してアンケート調査を実施する／産業界等から出ている既存の人材ニーズをもとにした意見交換を行う ほか</p>			